

# 令和元年度第2回 南丹市地域創生会議 会議録

■日時：令和元年10月11日（金）午前9時30分～12時30分

■場所：南丹市役所本庁1号庁舎3階防災会議室

## ■出席者

委員：今井委員、窪田委員、坂本委員、高御堂委員、谷口委員、野々口委員、藤野委員、藤村委員、  
俣野委員、南本委員 ※欠席なし

事務局：市長公室 船越公室長

市長公室企画財政課 國府課長、片山企画係長、富部企画係主査

■傍聴：2名

## 1. 開会（事務局）

■会議成立確認（設置条例による）

■策定スケジュール（予定）の確認（令和2年2月策定・3月公表）

### ■座長挨拶

大変忙しい中、また台風の影響が心配される中、出席いただき有り難い。

タイトなスケジュールの中で、委員の皆様には前回大変活発にご意見をいただき、今日に向けても評価の作業をお願いし、熱心に取り組んでいただいたことを感謝する。

私も他のいくつかの自治体で同じ仕事をしているが、取り組みの仕方等色々である。南丹市では委員の皆様それぞれ、熱心にアイデアを出していただけて有り難い。

今日は第2期計画の中間案も提示されるので、昨年度の交付金評価と併せて宜しくお願いしたい。

## 2. 議事

### 議事その1：平成30年度事業の事業評価について

<資料①（評価シート集約）+前回資料2・3>

委員：

私もあちこちでこの評価をやっている、南丹市の評価も毎年やっていると思うところがある。

国が作った枠組みでやってはいるが、南丹市から委嘱されて、南丹市の役割で評価をしている。しかも既に昨年度終了した事業を評価しているわけなので、その意味では矛先が鈍るような気持ちもある。いつそ内閣府から任命されていれば視点も変わると思うが。

評価の主旨としては、目標値を決め企画を立て事務事業をするが、その効果が狙いどおりになっているのか分かりにくい部分もあるため、地域を代表する有識者の皆様の、現場での経験も踏まえた知見を通して評価をしていく

ということである。

それでは、前回に引き続き平成 30 年度事業の事業評価をするので、事務局から資料の説明をお願いする。

(事務局から説明)

■資料①(評価シート集約)の概要について

委員：

では、今の説明を踏まえて評価を確定していきたい。

■事業 No.1 ふるさと農業創生支援事業	【事前評価】①×4名、②×5名、③×0名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】②(どちらかといえば有効であった)
--------------------------	---

委員：

総じてアウトプットよりもアウトカムを意識した事業内容にしていくべき。事業内容を見ると、実施後を意識できていない。把握できていない。

例えばDMOとの連携と書いたが、この地域は森の京都ということで農水省の農泊推進地域の指定を受けているはず。森の京都DMOも教育旅行の誘致をやっているし、京都府の観光事業推進課で海外の教育旅行のマッチングもやっている。

そういったものを上手く活用して、せっかく支援した農家民宿が本当に機能することを次の段階では意識していかなければならない。入口、第1期の取り組みとしては、これでいいと思う。

委員：

農家民宿は京都府下の南丹市以外の所でもあるので、切磋琢磨しながらやって欲しいと思う。

TVで取り上げられる等、南丹市の農家民宿の全体の知名度を上げて今後に繋げることが大事。「山の中で何をやるのだろう」と、すぐにイメージできないのが弱みで、実際に農業体験ができたり、新鮮な野菜が食べられたり色々良い面があると思うが自然と伝わらない。宣伝と言うか、農家民宿や農家カフェ自体の認知度を高めていけるのが理想。

■事業 No.2 創業支援事業	【事前評価】①×7名、②×1名、③×1名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
--------------------	---

委員：

評価には金融機関として書かせていただいた。創業支援のために色々なセミナーをやる事は良い取り組みだと思う。金融機関として数多く創業家の支援をしてきてきましたが、やはり少し目を離すと廃業につながるケースが多々ある。起業後こそ経営者に寄り添って、夢・悩み・課題を解決できるよう支援してゆくことが大切であり金融機関と地元商工会等とが連携してアフターフォローしていくべきと思っている。

委員：

次期に向けてまだまだ創業志望者はいる。呼びかけや寄り添った支援をやっていける。

2期戦略にも関わるが、金融機関ができる支援もあれば、自分自身でやるべきこと、市がやるしかないこともある。もし、市がやるべきことでご意見があればいただきたい。

委員：

京都の補助金制度はかなりの数があるので、それをアナウンスして有効活用していただくべき。

委員：

外部から移住してきた人が、いきなり創業というのは難しい。近隣との関係等もあり、地域に馴染んでからでないと厳しいと思う。理屈としては、移住して地域に良い影響を与え、その地域の特性を新たな視点で掘り起こして起業に繋げてくれたら。そのようなストーリーを戦略で書けたらと思うが、難しいか。

委員：

創業は定住と連携すべき。京都丹波移住・定住促進協議会を2市1町でやっていて、支援メニューの中に経営や金融があるので、そこから来てもらって話ができれば。

結果として次々起業があればいいのだが、なかなか難しい。地域を知っていただくことも含めて、起業の支援、起業後の支援も必要だと思っている。

委員：

移住して起業したいという人もいるだろう。中身のある支援ができれば良いと思う。

■事業 No.3 実践型人材育成事業	【事前評価】①×0名、②×7名、③×1名、④×1名、⑤×0名 【評価結果】②(どちらかといえば有効であった)
-----------------------	---

委員：

この事業はKPIにある女性の起業だけでいいのか。どういう人にどう起業させるのか、考えなければならない。

どこまでやれば成功なのか、数字にすると難しい。先程の事業との繋がりで、起業したい人に適切に支援していくことが大事。

女性の起業に期待があるとするならば、その点についてご意見は。

委員：

南丹市では待機児童は少ないが、子どもを預ってもらって働きたい女性の労働時間を確保する。

起業は勢いで出来るが、継続が難しい。女性は色々な立場になっていくと思うので、女性特有のシーン別の支援が必要。

子育て広場に来ている母親にも就労意欲がある人には働き口のリスト等の情報を提供できれば。配偶者の都合で転勤してきた女性は情報不足な方が多い。

委員：

女性の活躍の場という1つの支援。

活躍の場＝起業というのはハードルが高いようにも思えるが、1つの案ではある。

「女性の起業」というのは何を狙ってKPIにしているのか、次期戦略では注意して考えたい。

委員：

今度京都テルサで女性の起業支援のセミナー学習会があるが、起業は難しい。

美山でも誰が何をやっているか、住民が把握できていない。

委員：

起業家サロンを昔実施した。当初は男性中心だったが、女性起業家が混ざってきたのを受け、途中から女性の起業家サロンを立ち上げたら、それが人気だった。

そもそも起業家というのは孤独で、同じ立場の仲間を求めている。特にこの地域に移住・創業する場合は非常に孤独。

過去起業して成功した女性を講師としてサロンができないか。参加した起業家同士が仲良くなる。

委員：

そもそも何故女性だけなのかという疑問がある。

本当に成功する人は自力でやれる。支援が必要な方は失敗する可能性が高いと思う。

委員：

確かに KPI で女性だけ取り上げていることには違和感がある。むしろいらないだろうというご意見にも頷ける。

一般論としてはそう思うが、何か必要とする事情があれば別である。

例えば、地域の誤解や声(女性が何をしている、出過ぎている等)がもしあれば、そんな事はない、起業する人がいて良いことであると広げていけたらと思う。

■事業 No.4 むら・ひと・しごと創生事業	【事前評価】①×1名、②×6名、③×1名、④×1名、⑤×0名 【評価結果】②(どちらかといえば有効であった)
---------------------------	---

委員：

事業の中身として色々詰め込み過ぎている。そのため非常に評価が難しい。

これを一本化するなら、事業2と3も一本でいいと思う。

正直、事業の主たる目的はどこにあるのか分からなかった。それで評価が分かれたと思う。

委員：

評価について本来は細かいプロジェクトごとに考えるべき。サテライトオフィスと獣肉活用は明らかに事業が違う。交付金を受けた事業単位がこの形だから、同様にトータルで評価して欲しいという事情だとは思うが。

評価としてはまるめてやらざるを得ないが、ご意見としては1つ1つの内容について、伺いたい。

その他の事業についても、次年度以降もそういった考えでつくることが望ましい。

個人の意見としては、獣肉活用も大事で必要だとは思っている。ただ、必要ということと、現にやっていることが上手く機能しているかは別の問題。それぞれを見ていただかないといけない。

■事業 No.5 南丹市販路開拓支援事業	【事前評価】①×6名、②×2名、③×1名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
-------------------------	---

委員：

単体事業としては良い評価だが、勿体ない。先程の起業支援事業とリンクさせるべき事業。他の委員から起業後の継続が難しいという意見があった。

実際、商売として成り立たないといけないので、積極的にこういう支援を入れることによって継続の可能性が高まると思う。

今後は2つを上手くリンクさせていただきたい。

■事業 No.6 空き家流動化対策事業	【事前評価】①×8名、②×1名、③×0名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
------------------------	---

委員：

移住に関わる中で、代々守ってきた家を貸すということについて、地域が高い心理的ハードルを持っていると感じた。貸すことが人助けだという認識がない。

公共的な立場で必要性を訴える人がいれば動きやすいと思う。

委員：

支援者が一緒に行き間に入るといいのかもしれない。京都府と地元をよく知る人で。

確かに直接のやり取りだけでは、転入者に警戒心を持たれるのかも知れない。とはいえ、市役所が行って、自分が住むわけでもないのに地域と話しても説得力がない。行くべき人が行って、きちんと説得することが必要。

1冊675円のガイドブックの必要性については、事務局に聞きたい。WEB媒体でも良いと思うが、受益者負担ということで、冊子が欲しい人にはこのお値段で譲っているのか。

事務局：

「675円」については、受益者負担いただいているわけではない。

かかった費用を冊子の数で割った金額であり、必要な方には無償でご提供している。

委員：

承知した。

無理矢理空き家を取り上げるようなことをする必要はないが、委員のご発言にもあるように、納得した上で地域のために使えたら良いのだが。一方で、適切な管理をしないで老朽化したり、傷んでいくものもあるだろうから、難しいところ。

事前評価の最後の所に「番号6、7、8の事業について情報共有や連携体制」について質問があるが、どうか。

事務局：

6、7、8の事業については、現状として6と7の担当課が地域振興課、8の担当課が秘書広報課と分かれているところ。昨年までは全て定住・企画戦略課で所管をしていたので、そこで連携を図っていた。

定住促進サポートセンターについては、確かに場所が日吉支所という離れた所にあるが、移住希望者から相談があった場合には、随時地域振興課にメールで報告があり、情報共有している。

委員：

情報共有の後のフォローは怎么样了のか。例えば、「相談がありました」→「こういう空き家があります、どうでしょう」のような流れで。

事務局：

サポートセンターでそういう相談を受け、ニーズに合った空き家があれば勿論紹介している。

■事業 No.7 定住促進サポートセンター運営事業	【事前評価】①×9名、②×1名、③×1名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
------------------------------	---

委員：

薄暗いので明るくして欲しい。窓口としてイメージアップしてはどうか。

実際に窓口を担う方の意見も聞きながら、移住希望者の最初の接点を大事にして欲しい。

■事業 No.8 シティプロモーション推進事業	【事前評価】①×6名、②×0名、③×3名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
----------------------------	---

委員：

U・ターンの確保、移住促進、住民の方にわが町の魅力を再認識してもらう等ターゲットや効果は色々あると思う

が、では何をやっているのか、どれを狙っているのか方向性が見えない。

ターゲットを明確にしたら、やる事ももう少し変わってくるのでは。

委員：

知名度が一定出てきたという前提で、何を狙ってやっているのかということ。

委員：

4月からαステーションで、耳に付くくらい「Uターン Iターン なんだーん」と聴いてすっかり覚えてしまったが、αステーションに流しているということは、南丹市近郊の方がターゲットなのだと思う。

ただ、ラジオやテーマソングだけじゃなく、他にも色々アイデアはあると思うので、組み合わせを考えた方が目的が明確になるのではないかと思う。

委員：

私は電車通勤だが、京都駅の広告占有率は高いと思う。同じく戦略策定で関っている他のまちよりは明らかに。

それに見合った効果があるのか、次に何を伝えていくのか、課題はあるが。

■事業 No.9 観光イベント振興事業	【事前評価】①×4名、②×3名、③×2名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】②(どちらかといえば有効であった)
------------------------	---

委員：

「CREATOR DAYS NANTAN」参加者にフランスの旅行会社に勤務されている方がおられ、南丹市の「ものづくりを」されている事業先を紹介してほしい旨の依頼があった。後日フランスから来られた社長と社員さんを、八木と日吉の「ものづくりの工房」にご案内した。社長が何を考えているかという、今までは京都市内の京町屋を宿泊拠点にして伏見稻荷や金閣寺等の観光をしていたらしいが、今計画されているのは亀岡の古民家を借りて保津川下りで嵐山に出て戻り、2日目に南丹市で体験型の観光をさせ、その後日本海の大橋立観光に連れて行こうと考えておられる。

ただの観光は飽きられてきているが、南丹市なら体験型の観光が提供できるので実現したら素晴らしいことだと思っている。

委員：

可能性は大いに感じるころ。「こんな事もできそう、あんなことも出来そう」と思い浮かべて実績を見ると低い評価をしたくなるが、やった事そのものを見れば、頑張ったと高く評価もできる。

仕事で市内を移動する途中で沢山の外国人観光客を見るが、正直やることなく、真夏にコンビニの前でへたりこんでいる姿も見かける。

委員が言ったように、日本の古来の夏イメージで、美山等に来ていただいた方が有意義だろうと思うところもある。

京都市内に来た人に、南丹で体験をしてもらう余地というのは色々あると思う。

委員：

目的を見ると、地元の方がお盆で帰省した時に、故郷・南丹市が良いなと思ってもらうための事業という意味合いもあるのでは。その観点であれば定住関係の事業という捉え方になる。

イベントチラシも1ヶ月前にしかまかれないが、一般的に旅行社がツアーを組もうと思ったら3ヶ月前には日程を決めてチラシをまくもの。

イベントの開催目的は地域振興か観光か、どちらに焦点をあてるのか、それによってやり方と評価が違ふ。目的がしっかりと明確にされていない。

委員：

まことにそのとおりである。

委員：

目的を複数設定すると、おかしくなる。消費増税の軽減策にキャッシュレス化の推進を併せて混乱しているのと同じである。目的を明確にして、それに合った内容にしていく。KPI を観光宿泊数にしているのも疑問。

1 万人規模のイベントを1 回やるよりも、100 人規模のイベントを 100 回やる方が効果は大きい。リピーター創出に繋がっていく。

イベントはあくまでも一過性の取り組み。「たくさん来てよかった」という時代は終わっており、KPI も消費額で見べき。目的を明確に。

ただ、10 万人集まる花火イベントは貴重な機会。その時に何をするのか、工夫が大事だと思う。

委員：

評価のルールとして、元々国に示した狙いどおりになったのかどうかで判定する。

花火・もみじ祭り等は元々あったものを改めて重視して盛り上げていくものなのだという話になっていたのは事実。

それが、これからあるべき地域創生の観光という視点からすると、少し違うのではないかということになれば、評価結果として有効とまでは言えない。

委員：

花火大会は人が溢れて困っていた時期があり、警察からもPRを止められていた。しかし、PRを止めた途端に人が減り、戻らない。広報を減らして1 度減ってしまうと戻すのは大変であると痛感した。

その間に亀岡市の花火大会の日程が変更され、南丹市の日程に近くなったことにより、さらに減っていった。

その経過から言うと、やはりPRをしていかないといけない現実がある。

■事業 No.10 各種イベント等開催事業	【事前評価】①×1 名、②×7 名、③×1 名、④×0 名、⑤×0 名 【評価結果】②(どちらかといえば有効であった)
--------------------------	--

+

■事業 No.11 観光宣伝事業	【事前評価】①×5 名、②×4 名、③×0 名、④×0 名、⑤×0 名 【評価結果】①(有効であった)
---------------------	--

委員：

個人の意見としては、南丹市に来るようになって 10 年以上経つが、最近車窓から観光客をあちこちに見かけるようになった。前回の会議後、るり溪経由で大阪へ抜けたが、グランピング施設等を見たら驚くほど人がいて凄いなと思った。

一般的に言うと、観光宣伝で知名度が上がっている現状があると思う。

委員：

各種イベントは地域の人が楽しむ内容になっている。

委員：

各種イベントのバラバラ感は実感していて、勿体ないと感じる。

海外プロモーション先が森の京都と違うので、そこを合わせていければさらに効果的になると思う。

委員：

関西圏なら「美山」の知名度で通用するが、海外からのターゲットはもっと広域。「京都」「関西」という単位になる。一定連携をとって同じ方向を向いた宣伝をやっていくのが大事と思う。

南丹市は美山にぶら下がる観光振興。美山に行くまでに日吉があるが、京都市内の人でも日吉と美山の境目は分からないと思う。せっかく美山に集客力があるのだから、それを使わない手はない。「京都」も世界ブランドなので、ぶら下がり戦法を使うべき。

南丹市は、「美山」という知名度の高い所があるので、ぶら下がり全体を底上げを図るべき。

委員：

「観光まちづくり戦略」という記載があるが、実際にあるのか。必要と感ずるので、南丹市と一緒に作ってきたい。

■事業 No.12 観光協会事業	【事前評価】①×2名、②×7名、③×0名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】②(どちらかといえば有効であった)
---------------------	---

特に議論なし

■事業 No.13 山陰本線南丹市広告宣伝事業	【事前評価】①×6名、②×3名、③×0名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
----------------------------	---

特に議論なし

■事業 No.14 観光動態調査事業	【事前評価】①×3名、②×4名、③×0名、④×2名、⑤×0名 【評価結果】②(どちらかといえば有効であった)
-----------------------	---

委員：

動態調査は絶対必要な取り組みで、色々な自治体でやっている。京都府でもDMO、市町、観光協会等色々なところでやっている。しかし、調査データの分析まで至った事例を見た事がない。京都府でも最大の課題と捉えていてデータも色々あるが、情報として市町村単位で役に立つものではない。

市町村単位のデータ収集は必要なので、南丹市がやる事は否定しないが、分析して、それをどう反映するかが大事。それにはプロの分析が必要。京都府も色々画策しているが未だに上手くないので、一緒に考えたい。

ただ、継続調査はデータ蓄積のために必要だと思う。

委員：

スマホアプリを活用した謎解きゲームに300人集まった。そのアプリを使った動態調査。

謎解きゲームに300人集まって良かった。300人という点をとらえたら、有効であったと言えなくはない。

しかし、単に300人来たという結果だけでは評価①はない。

■事業 No.15 スポーツ拠点づくり推進事業	【事前評価】①×5名、②×3名、③×1名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
----------------------------	---

特に議論なし

■事業 No.16 小学校跡施設利活用推進事業	【事前評価】①×3名、②×6名、③×0名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】②(どちらかといえば有効であった)
----------------------------	---

+



<b>■事業 No.17</b> 小学校跡施設管理費	<b>【事前評価】</b> ①×3名、②×6名、③×0名、④×0名、⑤×0名 <b>【評価結果】</b> ②(どちらかといえば有効であった)
-------------------------------	---

委員：

サテライトオフィスを誘致するというような事について何かご意見は。

前日も話したが、ゼミ合宿で小学校を見せてもらって、色々なパターンがあると実感している。この夏にも養父市の小学校跡地利用を見学に行き、上手く活用されているところもあれば、そうでない所もあると思ったところ。

上手く活用できないところは何か故なのか。

委員：

旧平屋小学校には福祉関係団体のあゆみ工房が入ったと記憶している。社会福祉協議会や大谷大学の活用もあり、地域の実態調査にも取り組んでいる。平屋小学校はすごく活用できているように感じている。

美山町全体で地域振興部という組織があり、様々な面で地域活動は地域の者がやらないといけないという意識が美山町住民は高い。

委員：

廃校となった小学校の教室を借りたいという顧客はいるものの、八木の小学校は市街化調整区域のため、製造業等が入れないという制約がある。それを外せたらお客が入られる。

委員：

今後も原則全部地域で活かしていくことになっているが、上手く使えている所はそのままでもいいとしても、そうでない所は何か事情に応じて活用できないか。難しい所もあるのだろうと思う。

養父市も調整区域のような場所にあってもバネ工場に変わっている事例もあり、どうしてそうなっているのかは気になっている。

次期戦略には大きな課題になりそうである。

<b>■事業 No.18</b> 地域活性化支援事業	<b>【事前評価】</b> ①×5名、②×4名、③×0名、④×0名、⑤×0名 <b>【評価結果】</b> ①(有効であった)
-------------------------------	---

委員：

以前地域おこし協力隊で活動していた時に、支援員から色々なことを教えてもらい、もっと連携して集落の支援ができればと思った。特に支援員の活動地域が限定されていないと良かったと感じている。

移住者からすると、旧4町の隔たりはよく分からないので、集落支援員は柔軟に動ける立場であって欲しいと思う。

<b>■事業 No.19</b> 障害者団体活動支援事業	<b>【事前評価】</b> ①×6名、②×1名、③×2名、④×0名、⑤×0名 <b>【評価結果】</b> ①(有効であった)
---------------------------------	---

+

<b>■事業 No.20</b> 障害者就労支援ネットワーク運営事業	<b>【事前評価】</b> ①×6名、②×2名、③×0名、④×1名、⑤×0名 <b>【評価結果】</b> ①(有効であった)
---------------------------------------	---

委員：

障害者施設で仕事をすると、工賃が160円/1時間。皆、一生懸命働いているが、南丹市内の他の作業所でも同額である。トイレに行っても5分を超えたら賃金から引かれる。

障がいのある方に対して、もっとあたたかな事ができないのかと思う。賃金が1日働いても1,000円ぐらいにしかないことについて、南丹市の最低賃金と比べてどうにかならないのかと思うところ。

委員：

大きな課題はあると思う。とはいえ、こうした支援事業や就労支援のネットワーク運営を実施していく事については、有効と評価する方が多い。ただし、KPIは指摘いただいているようにちゃんと考えたい。

委員に教えていただきたいのだが、都市部では障がいのある方向けの、歯科等が重要であると評価があった。南丹市ではどういう様子か。

委員：

施設の歯科検診では医療機関から無料で来てくれる。そういうことはしっかりできている。

■事業 No.21 特別支援教育推進事業	【事前評価】①×6名、②×3名、③×0名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
-------------------------	---

特に議論なし

■事業 No.22 森の京都推進事業	【事前評価】①×8名、②×0名、③×1名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
-----------------------	---

委員：

国の地方創生推進交付金の補助が終了する。財源の半分を京都府、もう半分を森の京都を構成する市町で負担いただいている。南丹市としてDMO負担金を単費負担するほどの事業効果はない。

南丹市単独での取り組みには限界があるので、近隣の市町の連携で効果を出す必要はあり、市町村が単費負担している分程度は価値ある取り組みにしていきたい。それが京都府側の責任だと思っている。

森の京都の存在価値や必要性は変わらないが、DMOの事業内容自体が有効かどうかは検証しないとイケない。引き続きこの活動を一緒にやっていたらと思う。

委員：

既に南丹市内での旧4町の連携の課題もあったが、森の京都での市町村を超えた連携も必要。

■事業 No.23 間伐材出材奨励事業	【事前評価】①×6名、②×1名、③×1名、④×0名、⑤×0名 【評価結果】①(有効であった)
------------------------	---

委員：

林業のあり方もなかなか難しい。

府立大学も公共政策学科が府立林業大学校とコラボしながら取り組んでいる。林業にも公共政策が必要。

## 第2期人口ビジョン(案)について

<資料②>

(事務局から説明)

■第1期はコンサル委託による策定、第2期は府立大学の学生に協力いただきながら自前策定

■第1期は2010年度・平成22年の国調ベース、第2期は2015年・平成27年の国調ベース推計。

■全体的には下方修正、人口が減って行くという状況

委員：

人口ビジョンについて、ご意見・ご質問があれば。

委員：

旧町別のデータが必要。それぞれ課題も別で、やるべきことが違うと思う。

委員：

私は他市町村の人口ビジョンを見ているので、これを見ると詳しい良い力作が出てきたと思うところ。

ただ、詳しい力作を見ると、もっと作り込んで欲しいと思ってしまう気持ちも出てくる。

委員：

国政調査は市町村単位なので、その中での動きというのは考慮していない。それを抽出するには、別途システムが必要で、人的・財政的に負担がかかる。ただ、仰るとおり、ヒントはありそうな気がする。

根拠はないが、転入・転出動態を見ると、残念ながら京都市に吸い寄せられている印象。働く場との関連。府の職員でも圧倒的に地域外よりも本庁に勤務している方が多いので、だんだん本庁に近付いていく。

南丹市の方が亀岡に住んだり、亀岡の方が京都市に住んだりという動きがあるので、どこの企業でも同様だろうと思う。

一方で、京都市あるいは南の方からの転入者が増えているのは、交通の利便性が高まっているという証拠でもある。関西規模・京都府の単位でも表れてきている。

仰るとおり、南丹市内の動きは見えて来ないので、恐らく日吉・美山の方が園部に引っ越している事例はあると思う。南丹振興局内では顕著で、京丹波町の方が園部町辺りに転居している例は多々ある。そういう動向は一定、施策を講じる上では本当は必要なのかもしれない。実情を考えると見たいのが本音ではある。

委員：

2060年で見ると、このままいけば15,000人程度になるところを25,000人(+9,000人)までなんとか増やす、そのための戦略。そこで今やらないといけないことを考えなければならないという事。

このことを共有しつつ第2期の戦略を考えていきたい。

いずれにせよ大幅な人口減少が進んで行く中での暮らしをどうするか。高齢者が増える中で助け合い、災害時の共助、普段からの相互の見守りを含めて、暮らしが成り立つのか、農業・林業が減って行く中で成り立つのか、集落で農業ができるのか、そういう対策も具体的に考えていかないといけない。

そのために市がやることとして、人口を増やしたり、働く場を作ったりというのは、勿論大事であるが。減って行く人口の中で、どんな暮らしを描くのか、産業もどうやって維持していくのか、具体策で考えないといけない。

9,000人増やそうと言う以上は、内部で沢山子どもが生まれてくるか、外部から来てもらうか、いずれにしても今いる人とは随分違う新しい住民の人達が半分以上となる。

新しく生まれてくる家族が、移って来られる方と上手くまちを運営し、活躍もしていただく。それでいて今いる人が蔑ろになる事がないように、適度に新しい風も入れながら、お譲りする部分も出てくる。

新しい方と今いる方を上手く調和させていくということも、別途施策として必要な課題であるように思った。

4つの基本目標の4年間総括と市民意識調査の中間結果を踏まえた第2期中間案について

<資料③、④、⑤-1(概要)、⑤-2(本文)>

(事務局から説明)

■資料③(4つの基本目標の4年間総括)について概要説明

### 基本目標 1 について

委員：

起業支援をどのようにしていくか、女性の起業を支援する意味・狙いはどうかという議論があった。  
小学校跡地の土地利用について、規制緩和・柔軟化といった話も出た。

委員：

企業誘致の目標は達成した。これは恐らく、先程仰った土地利用の考えでいけば、一定の可能性があると思う。  
ただ、その時にどんな企業を誘致したいのかという方向性で全然違ってくる。

企業にとって生産性の向上が最大のテーマ。極端な話、大規模な工場を誘致したところで、全てロボットが製造していたら、就業者数が伸びない。どのような企業を誘致しようとするのかによって、目標設定が全く変わってくる。

委員：

観光にせよ、移住にせよ、企業の誘致にせよ、一定実績が出て可能性もあるという戦略が大事だろうと思う。

### 基本目標 2 について

委員：

PRについても、やってきて良かったが、どういう人をターゲットとしていくのかは戦略がいるだろう。  
府との連携や、市内部での連携、周辺市町村との連携も重要である。  
委員からご意見のあった花火の件等、第 2 期戦略に関係する在住者支援の事を言っていただけだと思う。

### 基本目標 3 について

委員：

大事なことではあるが、交付金事業にならなかったために、この会議ではあまり議論してこなかった。  
実際に南丹市としてこの分野に関して交付金事業以外でどう取り組んでいたのか、ここにいる委員には伝わらないところもあるかも知れない。なので、委員の皆さんも意見しにくいところがあるかも知れないが。  
総括評価として、婚姻数・出生数・合計特殊出生率等の KPI 関係で、ご意見等いただければ。

委員：

質問したい。人口ビジョンのところで聞かされたが、合計特殊出生率の低さに衝撃を受けた。  
数値の振れ幅が大きい、原因はどのように推測しているか。

事務局：

時間がなく分析ができていないので、今後調べていきたい。

委員：

全国ワースト 2 位の京都府より低い。

京都府が低い 1 つの原因として、京都府全体の中では京都市の人口が圧倒的に多く、その中でも学生が非常に多いという点がある。

南丹市も比較的学生が多い。大学もある地域なので、もしかしたらそれが関係しているのかもしれない。特に明治医療大学には看護師のコースがあり、女性が多くなるのでなおさら、という推測はできるが、憶測の域を出ない。一度、調べていただきたい。それによって、また手の打ちどころが変わってくると思う。

委員：

事務局の分析に概ね同意するとして、第 2 期ではどういう事業が良いのか、この基本目標について重点的に取り組むべきである。

#### 基本目標4について

委員：

指標は達成できているが、事務局としては比較的謙虚な分析をしている。

とはいうものの、市民意識調査をしたら、住みやすいと感じている人が、何で急に増えたのだと聞いても分からないのだと思うが。

防災の面で 50%は低いが、増えたという事実は、ポジティブにとらえる事ができると思う。

なかなか、労働とかみ合わせるのが難しいところ。

全体としては、この KPI で測れないような内容が多かったのではないかと思う。目標設定をより工夫していくことが必要。旧町を超えた連携の必要性ということも、引き続き言われていたように思う。

(事務局から説明)

■資料④(市民意識調査の中間結果速報)について概要説明

※特に議論なし

委員：

時間配分から言うと、しっかりと議論している余裕はあまりないように思う。

ただ、説明をいい加減にされても困るので、きちんと予定どおり説明をしていただき、お気付きのことは、ここでお話いただく。

とはいえ、延々と延長するわけにはいかないなので、まず今日は中間案の内容をご理解いただき、是非にというご意見を出していただいた上で、個別に意見を聴取する機会を別途設けて、皆様のご意見を中間案に反映していきたい。

(事務局から説明)

■資料⑤-1(第 2 期戦略中間案概要資料)を用いて戦略の構造を説明

■資料⑤-2(第 2 期戦略中間案本文)について、第 1 期戦略からの変更点を中心に説明

委員：

基本目標 3>施策 2 の内容はここが適切なのか。基本目標 4 にあたる内容のように思う。

\*どのような姿を目指す戦略なのか、要点についての意見

\*KGI・KPI指標を事務局が悩んでいるということ、目標を何にするのかということ

\*基本目標・KGI・KPIを達成するためにどのような事業取り組みをするのか

このあたりについて色々お知恵をいただきたい。今日は特にお気付きの点を言っていただければ。

個人の意見としては、若者の声を聞き、活躍の場を作り、まちづくり・地方創生に巻き込むこと、新しい住民の声を聞き、巻き込んで活躍いただくこと、2030 年の暮らしについての話し合い・ワークショップ等が必要と考える。

中間案の見やすい形態の工夫についても考えたい。

委員：

地方創生関係交付金のことと言えば、「関係人口」と「連携」という国指針のキーワードがポイントなので、テクニク的には戦略に明記しておいた方が獲得しやすいのではと思う。

施策についても、私の記憶によると、南丹市はふるさと納税に今後力を入れていくと聞いたように思うので、それも記載すべきでは。

委員：

「この地域に住みたい」「入居を固めていく」ことと、農業の生産を上げていくのは別の視点がある。

観光で人に来てもらわないといけない部分と、農業の生産性を上げていく部分とをどうバランスを取っていくのか。

個々がこの地域でどういう暮らし方をしたいのか、という目標の観点から整理していかないといけない。

委員：

以上のような形で第 1 期の総括とし、中間案については本日の協議内容を反映したうえでパブリックコメントを募集、その結果を次回会議にてご報告いただきたいと思う。

指標設定について事務局はかなり苦しんでいるようだが、目標は必ずしも数値でなくとも、客観的に測れば良い。無理に設定しなくても、「増やす」とか「一定数増やす」等でも良いのでは。なるべく客観的に測れるぐらいの数字が良いというのはあるが。

本日においても、皆様から大変、活発にご意見をいただいた。

事前にも準備いただき、評価のご意見も、大変貴重なものを沢山いただけているように思う。御尽力いただいていることに、改めて、お礼を申し上げたい。

その上で、12 月に向けて戦略が形になっていくところなので、引き続きご協力をお願いしたい。

本日の議事は以上になるので、ここで議長を降壇し、進行を事務局にお返りする。

### **3. その他（事務局）**

- ・ **次回日程調整**：次回開催は令和元年 12 月 24 日(火)に決定-

### **4. 閉会（事務局）**